

目的と定義の概要

この文書の目的は、継続的専門能力開発(訳者注:専門職としての生涯学習)とネットワーキングのためのソーシャルメディアの利用について、世界作業療法士連盟の立場を表明することである。

この声明は、作業療法の役割の一つとしてソーシャルメディアをもつ会員国と作業療法士すべてのためのものである。この声明において、ソーシャルメディアを定義し、専門職としての役割においてソーシャルメディアを使うメリットを明らかにする。リスクを軽減し専門職のオンラインでの評判を高めるために、ソーシャルメディアに安全に関わるための原則の概要を示す。

「ソーシャルメディア」という用語はテクノロジーの特定の組み合わせとその適用を指す(英国政府, 2014)。ソーシャルメディアは、情報や意見共有を促進し、ディスカッションを推進するオンラインのテクノロジーであり、オンラインネットワークを構築するために使うことができる。テクノロジーには、多様なメディアがあり、テキスト、画像、ビデオ、音楽が含まれ、次のものがある。

- Facebook: 現在最強のソーシャルネットワークのウェブサイトで、4億人が活発に利用している。
- Twitter: ソーシャルネットワークとマイクロブログサービスで、利用者をツイートとして知られるメッセージを送ったり読んだりする。
- WFOT 会員限定ディスカッションフォーラム: 専門職の意見交換とディベートのためのもの
- YouTube: 動画共有ウェブサイトで、利用者は動画をアップロードしたり、共有したり、視聴したりする。
- LinkedIn: ビジネス用のソーシャルネットワークサイトで、主に専門職のネットワークのために使われる。
- Flickr: 画像のウェブサイトでオンラインコミュニティ
- Slideshare: パワーポイントのプレゼンテーションや文書を共有するウェブサイト、スライドショーをアップロードしたり、見たり、コメントしたり共有したりできる。
- Blogs: 知識や技能を共有するためのもの
- Pinterest: 視覚的資源を共有するためのもの

とるべきポジションについての声明

作業療法を世界的に発展させるという WFOT のミッションは、地方の文化、資源、作業に対して概念化されたサービスへのアクセスを前提とする。

ソーシャルメディアを使う作業療法士は、作業療法の実践を統治する管轄区、機関、専門職の規則や方針に従うべきである。

専門的利用のためのソーシャルメディアガイドラインは、作業療法士、教育者、会員協会、その他の社会的関係機関のコンサルテーションにおいて規定され、最良の実践によって情報を与えられるべきである。

作業療法にとっての問題の重要性についての声明

作業療法士は、情報収集のために、エビデンスに基づいた実践のために、知識の発展の助けとしてインターネットを使う(Bodell 他, 2009, Hamilton, 2015)。オンラインネットワークの力を利用することによってこれを行う。そしてもっとも役立つネットワーク(「実際の」世界あるいはオンライン)は、多様であり、密度が低い(Dobrow & Higgins, 2005)。多様なネットワークは、広い範囲で、戦略的に選ばれた多様な専門職、視点、個性を反映する。ネットワークの密度は、ネットワークが広がる領域に関連し、密度が高いのは、たとえば一つの病院で密接にコンタクトをとるような場合であり、密度が低いネットワークは、より広く広がっていて、たとえば全国的あるいは国際的に広くカバーされている場合である。

ほとんどの作業療法士は、すぐには実際の世界の多様性にアクセスすることはなく、密度の低いネットワークである。時間と資源という点ではかなりの投資が必要であり、結果として実行可能な選択肢として、専門職のネットワークの主なオンラインテクノロジーを使う(Kashani 他, 2010)。

オンラインソーシャルメディアは、多様で密度の低い無料のネットワークで、時間と努力と言う点で低コストのものとなる。Bodell と Hook(2011)は、ネットワーク作りが専門職の役割とサポート的な戦略に必要な要素だと述べた。彼らは、オンライン環境の力が、伝統的なネットワークづくり戦略に伴う時間や費用やエネルギーといった煩わしい負担なしに、世界的な専門的ネットワークを発展させることができると提言している。

ソーシャルメディアを使うことはリスクがないわけではない。特に秘密保持、専門職主義、個人の安全性に関してはリスクがある。Boon と Sinclair(2009)は、オンラインソーシャルメディアを無邪気に使うこ

<https://www.wfot.org/resources/use-of-social-media>

(2020年5月2日 吉川ひろみ・訳)

とを警告し、学習への取り組みや深さに関連する潜在的問題や、証明や信頼に関連する問題について述べている。この声明書は、こうしたリスクのいくつかの改善を探るものである。

チャレンジとストラテジー

WFOT が断言するのは、ソーシャルメディアを使う作業療法士が、WFOT の実践のスタンダードと倫理綱領に記載されているプロフェッショナリズムの標準に適合するべきであり、作業療法実践を統治する管轄区域、機関、専門職の規則と方針に従うべきだということである。

ソーシャルメディアを使うためのよい実践の原則(上述した関連するすべての規則と方針の遵守に加えて):サポートとなるガイダンス文書における追加事項

1. 個人的役割と専門的役割を常に分けることはできないと認識する。
2. オンラインで示した画像は、あなたとあなたの専門両方を反映する:倫理的で前向きであれ。
3. オンラインでの交流するとき、自分自身のために話しているのか、雇用主のために話しているのか、専門職のために話しているのかを明確にする。
4. 思慮深く、丁寧に、尊敬の念をもって他者に対応する。
5. あなたの専門性、洞察、経験を、形成し、つながり、共有する。
6. 倫理的方法でオンラインを使い、他者も同じように行うことをサポートすることにより、ソーシャルメディア利用を推進する。
7. 倫理的にソーシャルメディアを使うために他者をどのようにサポートするかを学習する。

結論

注意深くリスクを考慮する必要があるが、このテクノロジーを警戒し過ぎることは、作業療法士や会員組織の能力を限定してしまうかもしれない。この領域での技能発達を望む人にとって、現在はトレーニングの機会が限られているが、多くの最良の実践の綱領やガイドライン(この文書もその一つ)がある。この原則は、既存のガイドライン構築を探る者であり、作業療法士や組織の管理者のために、ソーシャルメディア利用を促進するための包括的アプローチを提供する。